

会 議 録

令和3年12月10日調製

審議会等名	令和3年度 第1回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	令和3年10月11日(月) 午後2時～3時
開催場所	三条市立図書館 2階 視聴覚室
傍聴者の有無	あり
出席者氏名	<p>【協議会委員】  倉品委員長 長谷川副委員長  小畑委員 小林委員 清水委員 六原委員 松原委員</p> <p>【説明のための職員】  (生涯学習課)  恋塚課長 笹倉課長補佐 今井主任  (指定管理者)  篠原館長 川口総括責任者 村山副責任者 夏目三条営業所長</p>
協議題	(1) 正副委員長選出 (2) 図書館等複合施設建設工事の進捗について (3) 図書館等複合施設の愛称募集結果及び選考方法について (4) 第3次三条市子ども読書活動推進計画の策定について (5) その他
篠原館長	(あいさつ)
	(協議会委員、生涯学習課職員、指定管理者職員の順で自己紹介)
篠原館長	協議題(1)「委員長・副委員長の選出」について、自薦又は他薦など各委員の意向をお聞かせ願いたい。 (しばらくして) ないようであれば、事務局から倉品委員を委員長に推薦させていただきたい。
	(異議なし)
篠原館長	それでは、倉品委員に就任いただき、以降の進行をお任せする。(倉品委員が委員長席へ移動)
倉品委員長	同様に副委員長の選出について、自薦又は他薦など各委員の意向をお聞かせいただきたい。
	(しばらくして)
倉品委員長	事務局案はあるのか。
篠原館長	事務局からは、長谷川委員を副委員長に推薦させていただきたい。
	(異議なし)
倉品委員長	長谷川委員に副委員長をお願いする。(長谷川委員が副委員長席に移動)
倉品委員長	それでは、協議題(2)「図書館等複合施設建設工事の進捗について」の説明をお願いする。

笹倉課長補佐	(図書館等複合施設の概要と工事進捗状況の説明)
倉品委員長	資料を見て「このような図書館ができるのか」と、楽しみで一杯である。
松原委員	万引き防止システム、その機械的なシステムと人的努力をどうするのか説明してほしい。
笹倉課長補佐	従来から説明しているとおり、全ての本にICタグを貼付する。貸出返却については、図書館職員を通してすることも可能だが、今後は自動貸出返却機で行う。また、入口が3か所あるが、それぞれに書店や家電量販店にあるようなゲートを設置する。貸出していない状態で本を持ち出そうとするとアラームが鳴るような仕組みになっている。
松原委員	BDSが3か所ということか。
笹倉課長補佐	4か所ある。1階に予約本受取室というものがある。ここで予約した本を貸出処理せずに持ち出そうとするとアラームが鳴る。3か所の出入口と予約本受取室の合計4か所である。それと監視カメラを1階、2階、3階にそれぞれ設置する。
松原委員	監視カメラのダミーはあるのか。
笹倉課長補佐	隈研吾氏の設計であり、カメラも意匠を重要視しているため難しい。
松原委員	デザインより実質であると思う。
笹倉課長補佐	逆にカメラがわからないようになっていながら、例えば、この図書館の入口にもあるデジタルサイネージという液晶の画像を映すものがある。そこに監視カメラの映像を映すという提案をもらっている。これはこれで、抑止にも繋がられるのではないかという提案である。
松原委員	そのモニターはカウンター付近に設置するのか。
笹倉課長補佐	1階の案内カウンターのところ設置し、カメラの映像を映すかどうかは別として2階と3階にそれぞれ1機ずつ設置する計画である。
松原委員	バッグ持ち込みを禁止することはどうするのか。
笹倉課長補佐	バッグ持ち込みを制限するのは難しいと考えている。なお、コインロッカーは設置する計画である。
松原委員	ここに必ず預けるとい誘導サインのようなものはあるのか。
笹倉課長補佐	特に考えていない。持出防止装置は機能すると思っている。また、逆に制約ばかりで縛ることにより利用に支障が出るのではということに危惧している。
松原委員	雪について、隈氏は雪国の厳しさがわからないと、若干不安視している。
笹倉課長補佐	隈事務所の直接担当している方が、以前は、長野県飯山市の文化会館を担当していた。飯山市はここよりも雪が深いところである。また、落雪については、建築課の監督員や設計担当も注意して設計を見ており、今回の図書館等複合施設については、屋根の際の部分に高さ何十センチの縦の壁を設置し、雪が落ちないように設計をしている。

倉品委員長	設計的なものは進んでいるので、何か要望等があれば発言してほしい。
六原委員	新館に設置予定の棚をみせてもらったがスチールの棚である。あの状態で重い本がたくさん乗った場合、もちろん図書館の本棚だから大丈夫な設計になっていると思うがどうか。
笹倉課長補佐	この書架については、デザイン的な部分は限事務所が関わったオーダーの部分があるが、キハラという本棚メーカーが製作しており、根幹の使い勝手の部分はしっかりとしている。
六原委員	木をふんだんに使う設計だから、本棚もすべて木になるのかと思っていた。
倉品委員長	木は本当に柔らかい感じで、特に低学年など小さい子どもには良いかと思っていた。
六原委員	できれば、ぶつかったりしても危なくないようなものしてほしい。
恋塚課長	そこは先ほど申し上げたように、ここから試行を重ねて少し形が変わってくる。例えば、スチールの出っ張りを無くすということは考えているとのことである。
笹倉課長補佐	スチールの出っ張りがこの写真にはあるが、この脇の木の大きさをスチールが隠れるようにというのが隈氏の指示だそうだ。
倉品委員長	これは少し危ない。
六原委員	少し重厚感がなく残念感があるが、すべて木で作られた書架であるといかにも図書館という感じがする。
倉品委員長	実際に自分が利用するような観点で見てもらえればと思う。
六原委員	水飲み場の件はどうなったのか。
笹倉課長補佐	水飲み場については色々な施設に色々な水飲み場があるかと思う。例えば足踏みで出るの多いかと。ボタンを押してというのもある。人が口をつけたものが落ちてくるようなものが一般的かと思うが、それが不衛生であるとの声が多いと聞いている。そこで、今回この施設の1階にカフェコーナーを設置するが、そのカフェの出店者が無料で水を出すようにするつもりである。水飲みの水のタンクを置いて紙コップで注いで飲めるようにする。
六原委員	すまいるランドの小上がりの奥の方に、コップを出してきて、小さいコップなのだがそれにお水を入れる。あれはすごく衛生的で良いと思った。そのような形のものか。
笹倉課長補佐	そのとおりである。ただ、実際にどういうタンクになるのかは、カフェの出店者との協議になるかと思っているが、衛生には十分に配慮したものになる予定である。
六原委員	新型コロナウイルス感染症も終息してないと思う。
笹倉課長補佐	コロナが終息しても、衛生観念は戻らないのではないかと考える。トイレには所謂ジェットタオルというのではなく、ペーパータオルである。洋式便器も消毒で拭く形になっている。
六原委員	それは、現在も結構言われている。

倉品委員長	実際の進捗状況はほぼ予定どおりに進んで開館の予定はいつか。
笹倉課長補佐	令和4年度中を考えている。建物は、来年の2月に完成する予定である。その後、駐車場などの外構工事を行うことと並行して、図書館の引越作業を行い、令和4年度、それほど遅くならないタイミングで開館したい。
倉品委員長	本当に楽しみである。また、お気づきの点があったら、この場でなくても声を出していただきたいと思う。
倉品委員長	それでは、協議題(3)「図書館等複合施設の愛称募集結果及び選考方法について」の説明をお願いします。
笹倉課長補佐	(図書館等複合施設の愛称募集結果及び選考方法について説明)
倉品委員長	決定権はなく、候補を選ぶということか。
笹倉課長補佐	候補を選びつつ、その中でも選考会としてはこれが良いという意見は当然付けていただきたい。
長谷川副委員長	いち押しを選ぶということか。
笹倉課長補佐	そうである。絞りつつも、これが良いのでは、というふうに選んでいただきたいと思っており、図書館は図書館協議会、科学教育センターは校長会、鍛冶ミュージアムは鍛冶集団からそれぞれの代表の方から選定していただく。
六原委員	鍛冶集団とは何か。
笹倉課長補佐	鍛冶道場を運営している越後三条鍛冶集団という鍛冶職人の団体である。また、選考には、私ども生涯学習課の職員、私と今井、商工課の職員が2名、教育委員会から2名、指定管理者も加わり、ざっくばらんに絞る作業をしたい。堅苦しい会議ではなく、わいわい楽しくやりたいと思っている。
恋塚学習課長	更に付け加えると、3,070件の中には、メールで来たもの、任意の用紙、応募用紙で来たものなど様々なものがあるが、例えば要件を満たしていない、例えば、愛称だけ入っていて、その名前を付けた由来が入っていない、または、応募いただいた方の名前が入っていない、メールであるのでアドレスはわかるが、氏名がわからない場合があるので、それを私どもで一時的に整理させてもらうため、実際にはもっと少ない件数になるかと思う。よろしく願いたい。
倉品委員長	それでは、各委員の中から希望される方は自薦をお願いしたい。
松原委員	エントリーで良いのなら私。
笹倉課長補佐	もうお一人どうか。
長谷川委員	では私。
倉品委員長	では、松原委員と、長谷川副委員長の二人からお願いしたい。
笹倉課長補佐	選考会の案内の紙をお配りする。よろしく願いたい。
倉品委員長	では、代表として頑張っていてほしい。どんな愛称になるのか楽しみである。
笹倉課長補佐	来週月曜日、よろしく願いたい。以上である。

倉品委員長	次に、協議題（４）「第３次三条市子ども読書活動推進計画の策定について」事務局から説明をお願いする。
今井主任	（第３次三条市子ども読書活動推進計画の策定について説明）
倉品委員長	今、説明があったとおりだが、やはりペラペラと見ても難しいので強調したい点、新しい観点で加わったものなど２、３点でよいので話してほしい。
今井主任	先般、協議会委員からいただいた意見を基本的に踏襲している。例えば、概念図というものを前回割愛したが、今回、最後のページに概念図を示している。また、ヤングアダルトとティーンズという２つの言葉を使っていたが、平たく考えると同じような言葉ということで、ティーンズに統一した。更に、マルチメディアデジター図書である。内容的には、今回新たに追加した電子図書ともある意味重複するが、障がいを持った方にも対応できる新しい分野のものとして加筆したものであり、書きぶりも変えた。
倉品委員長	今ほど話があったティーンズというのはヤングアダルトの方が割と耳慣れているのだが、やはり今は、ティーンズが使われているのか。ティーンズは１０代ということか。
篠原館長	こちらの図書館ではティーンズコーナーという言い方をしている。ヤングアダルトという言い方をしているところが多いが、誤解をされる方がいる。アダルトという部分にだけ反応してしまう方がいるので、おそらくティーンズという言葉の方が一般的にはわかりやすいのではと思っている。ほぼ同列である。
倉品委員長	ティーンズというのは、具体的な数字で言うと何歳から何歳までという定義はあるのか。
篠原館長	ティーンズもヤングアダルトも年齢的な定義はない。
倉品委員長	二十歳になっても「おれはティーンズだ」のようなことはあるのか。
篠原館長	一般的には、中高生あたりをヤングアダルトにしてもティーンズにしても主流にはしているが、読書が進んでいる子どもであると、小学校高学年でも十分にティーンズコーナーのものを利用できる。逆に内容的に読みやすいものが多いためティーンズのものを利用する大人もたくさんいる。
倉品委員長	大人の方でも、岩波少年文庫ではないが読みやすいというお年寄りもいる。
長谷川副委員長	二次のときに、学校図書館の蔵書のデータ化という項目があったが、それをなぜ省いたのかを質問で出していたが、どうなったのか。
今井主任	学校図書館の蔵書のデータ化は、ほとんど皆無の状態であるが、必要なことだとは思っている。新しい図書館となって、例えばもっと貸出しが便利になる、人の手を介さずＩＣで貸出せるよう時代も変わってくる。もう少し時間をかけて、検討はもうしばらく先になるのではないかと考えている。また学校には専門の司書がない、専門にデータ化に取り組む

	方がいないという声も学校に対するアンケートで聞かれた。決してやらないということではなく先に送るという意である。
長谷川副委員長	進捗状況に上げずとも「押していく」という姿勢として、取組として残す方が良いと思う。「先送りした」として一度消してしまうのはいかなものか。
今井主任	ずっとこの先消えないように、進捗管理をするべく残すこととしたい。
長谷川副委員長	そういうことであればよい。
六原委員	学校の図書室は学校の雰囲気、校長先生の考え方により風景が違う。できれば本当に繋がれば、そこにある本を買わなくてよい。そこになればここにあるということができるといことで本の購入の削減になる。そういう意味合いでも上がっていたことであると思う。学校に働きかけることは必要であると思う。図書室自体がないがしろにならないように働きかけてほしい。図書館と教育委員会が離れた。そうなるとう尚更かけ離れてしまうような気がして心配であった。連携を取るに当たり働き掛けは絶対に必要であると思う。
今井主任	追加をして、再々修正版のようなもの皆さんの自宅へ送るので見ていただきたい。
恋塚課長	今の部分はとても大事である。学校の図書室と新しくできる図書館は決して別物ではない。学校の図書室にも司書がどうなのかというところ、先生が多忙で対応ができないなど、様々な課題がある。それに対して、どうしたら相互に利用できるのかという話は重要である。これは、先送りしているわけではなく、職員にも今年度きっかけの話をまず聞くところからスタートしなければ、簡単に先送りと取られてしまい何もしないと思われるとう困る。学校の図書室としての課題は何があるのか、図書館としてどのように連携すればよいのか、新しくできた大学の図書室はどういう感じにするのかを含めて考えていかななくてはいけないという部分で意識しているところである。
倉品委員長	以上で、協議題は終了したが、委員から何か発言があればお願いしたい。
六原委員	協議会を開催するに当たり、以前は入館者数などのデータがあったが、資料が送られてきていなかったことが一点。送らずここでこのようなことをするというだけにしたのか。
恋塚課長	冒頭で説明をすればよかったが、本来であれば昨年度の実績を示すことを考えていた。どのくらい利用されているか、どのくらい本が借りられているかは、今後来年3月の協議会で2年度実績及び3年度見込みの報告をさせていただきたい。また、昨年度についてはコロナ禍の関係で休館日数も随分あり、数字的には下がったものになっているが、そのために出さなかったということではないことだけ認識していただきたい。
六原委員	指定管理者が変わったので、図書館としての認識が違っているのではないか。例えば、レファレンスは、TRCの時、令和元年の時は多かった。一日にすると14件ということで、これほどレファレンスは多いのかと思

	った。このカウントは、「こんな本が欲しいが探してほしい」という問い合わせをレファレンスとしてカウントしたのか、また、レファレンスシートに書いてレファレンスとしてカウントしていたのかという、カウントの方法の相違がある。指定管理者が変わって、考え方としてレファレンスシートを書いたものがレファレンスとしてカウントするとそこに格差がでてしまう。その場合、重箱の隅を突くわけではないが、なぜこんなに少ないのかということが、委員の中で出てしまう。レファレンスの基準をどういうところに置いているのか。
篠原館長	全ての問い合わせがレファレンスであり、いくつかの項目に分けることができる。例えば、新規登録時には必ず利用案内をするので利用案内という項目、「この本はどこか」という書架案内という項目、「この本はあるか」という所蔵案内という項目、「こういったことを調べたい」とレファレンスシートに記入するという項目。今年度の途中からはこの4項目に分けて数字を取っている。
六原委員	「この本はどこか」もカウントに入るということか。それは図書館として一般的であるのか。
篠原館長	ほぼ一般的である。
六原委員	以前の資料に載っていたかどうか定かではないが、図書購入費も載っていたか。
恋塚課長	図書購入費は、報告していない。
六原委員	これは公表するのか可能か。
恋塚課長	大丈夫である。
笹倉課長補佐	三条市から指定管理者に対して、毎年2,200万円の本を買うよう仕様として謳っている。
六原委員	それでは2,200万円は買っているのか。
恋塚課長	それを下回ることはない。
六原委員	購入する本は決まっているのか。
笹倉課長補佐	2,200万円買いなさいとしている。何を買うのかは指定管理者が選書をしている。
六原委員	安心した。人件費がかかり、新しい図書館ができるためお金が使えないため、本の購入が少なくなると残念だと思い心配していた。それはありがたい。
倉品委員長	年々増加傾向にあることが望ましいのだが、厳しいだろう。
松原委員	ずっと定額か。
恋塚課長	全く横ばいである。
長谷川副委員長	私が十数年前に図書館に勤務していた時や指定管理の時は2,000万円位であった。指定管理になったことは残念であったが図書費は減らない。財政が悪くなっても図書費だけは減らない、それは大きなサービスだと思ってほしいと説明した覚えがある。そこは良かった。大体、財政が悪化すると全体的に一番減らしやすいのがそこであるので、金額も大きい。

	2,200万円にしているということだが、なるべく増やせるようお願いしたい。
恋塚課長	新しい図書館になるため、古い本ばかりではみすぼらしい。
長谷川副委員長	以前、質問した際、新館の開館に際し、新しい本を購入する予算がないと言われた。
恋塚課長	そうである。是非購入したいとは思っているが、再三言っている事情である。どのようになるかわからないが、内部的には調整していきたいと考えている。
六原委員	リクエストも入ると思うが、それらもきちんと精査し、新しい利用者がまた読むような本、今までの利用者でも読む本なども精査して入れてほしいと思う。もう一点カフェについて、えんがわと競合のようなところがあるが、図書館のホームページで募集している。これは市のホームページではないのか。市のホームページはあまり見ないのだろうか。
恋塚課長	市のホームページに出ているが、基本、募集している母体が指定管理者である「ツクール・ド・さんじょう」になっている。
六原委員	そのため図書館のホームページに記載なのか。
恋塚課長	そのとおり。三条市のホームページにもリンクを貼っている。
倉品委員長	これは探しづらいところがあるかもしれない。
六原委員	探しにくい。
恋塚課長	三条市のホームページ自体が担当課の意向に沿って記事をぶら下げているような状態である。
六原委員	そういったことに精通している一般の人などを雇えばよいというわけにはいかないのと思うが、「ボランティアでホームページを作らないか」という方法もあるかもしれない。ボランティアでも、図書館ボランティアをしている人はたくさんいる。読み聞かせばかりではなく、ラベルを貼ったり、購入した本の帯を貼ったりということもある。一旦、なくなりそうであったがまた復活したようだ。本屋に行って帯を見て買う人が多いので、貼らないで置かれると何の本であるのかわからない。あれは絶対に貼っておくべきである。手間であろうが、それをしてくれるボランティアもいるので、どんどん人の力を借りて新しい図書館をつくってほしいという強い希望がある。様々なスキルを持っている人がたくさんいる。ホームページについては、図書館はゆっくり探せば出てくるわけか。
恋塚課長	そのとおり。
松原委員	以前、開館時間が10時というのは、いろいろな協議の中で決まった話であると聞いたが、今後、8時台や9時台の利用者が少ないため見直すという可能性はあり得るか。それともあり得ないのか。
恋塚課長	あり得ないのかと言われるとあり得ると思うが、可能性としてはあまりないと思っている。というのは、体育文化会館や各公民館は、全て夜10時まで開館しており、特に公民館で夜に高校生が勉強して閉館ギリギリ



	まで滞在しているという状況がある。新しい図書館ができれば閉館ギリギリまで滞在する方はかなりいると思う。
松原委員	見通しとしては、かなり使われるということか。
恋塚課長	そのとおり。そうした中で、図書館だけ9時まで8時までに縮めるというのは条例改正の手続きがあり、相当な理由がないと縮めることはできないだろうと思っている。
六原委員	公民館などは、何時になったら鍵を閉めるといった、おそらくシルバーさんが多く携わっている所が多いと思う。その仕事と防犯などを含めた少し特殊な業務が図書館にはあると思う。他は、働いている人の時間、ここからここまではいくらであり、雇われているのだから働くのは当たり前という感じであると、技術を身につけたのにやはり働いていけないので辞め、新たな人が入ることで人が替わっていくといったような離職率が高くなってしまふのが心配である。その辺りを館長もしっかり見て、働く人が三条市の図書館で、新しい図書館で働いていると誇れるような図書館にしてほしいとずっと思っている。
恋塚課長	同感である。例えば、夜8時以降は申し訳ないがレファレンスは対応できない。貸出返却についても自動貸出返却機のみを使用してほしいというやり方もあると思う。そうすると図書館職員は8時ぐらいで終わり、その先はシルバーというのもあり得るかと思っている。必ずフルスペックのサービスを10時まで提供する必要はあるかということ、決してそのようなことはないと思っている。そうすると、図書館職員は8時ぐらいで終わり、その先はシルバーというのもあり得るかと思っている。
笹倉課長補佐	実際に動いてみてどうなるのかということも有ろうかと思うので、調整はいずれにしてもしていきたい。
松原委員	8時以降のシルバーは、防犯上の問題からほとんど男性か。
恋塚課長	実際各公民館にシルバーに来てもらっているが、全員男性である。
倉品委員長	公民館はそういった形である。
六原委員	利用者からのクレーム、不満があるなど、新しくても古くても気になる人は言うてくるので、そのようなことを取上げたり、きちんと対応していくことも大事だと思う。働いている人のモチベーションが下がらないような勤務体制も構築してほしいと思う。
恋塚課長	それは指定管理者としっかり協議していきたい。
六原委員	お願いしたい。
倉品委員長	私たちは、代表として話をしながら新しい図書館も今のこの図書館もそうであるが、市民の皆さんや子どもたちに愛される「よい図書館だ、行ってみたい」といったような風土が出来上がっていくと良いと思っている。今後もよろしくお願いしたい。今年度はもう一回冬にやるということで。
笹倉課長補佐	もう一回は間違いなく行いたい。また協議したい事案が出た場合はそれに寄らず参集いただくこともあるかもしれない。

倉品委員長	議長役を下りて事務局に返す。
篠原館長	(閉会あいさつ)